

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人昌円会 グループホーム華はびきの
(ユニット名)	グループホーム華はびきの
所在地 (県・市町村名)	大阪府羽曳野市島泉八丁目5番19号
記入者名 (管理者)	横萩 イサム
記入日	平成 年 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム立ち上げ当所より、家庭的な環境作りと、なじみの場所で地域の方々と共にあゆんでいくことを基本としている。		理念のごとく、笑顔の絶えないお互いの気持ちを受け止めあえることを目標に職員一同、入居者の方々、地域の方々と共に毎日を過ごすことに努めます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、管理者及び職員間で意識出来るようにしています。	○	毎朝、ミーティング時にスタッフ全員で音読する事で意識作りを行い、常に笑顔で心のふれあいを大切にしたい。また、現在はホームの理念のみならず、ケアの理念も構築し掲示している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や地域運営推進会議内でも今後のホームの方向性等をお伝えし、合わせて理念についても説明している。		ホームに閉じこもることなく、買い物や散歩などで積極的に社会参加を行っている。また、ホーム内の様子を掲示板を用いて地域に発信している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	民生委員の方とのコンタクトを定期的に行い、今後のホームの在り方について相談を行っている。また、定期的にホーム周辺の清掃活動を行い、地域の方たちとの交流につなげている。		毎年恒例の夏祭りを通じ、近隣住民との交流に努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で開催されている写真展や菊花展に参加したり、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	○	現在は、行動範囲を広げ、外食や歌謡ショーや寄席といった、様々な催しにも参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域運営推進会議の中でも何か支援出来る事がないか検討し、定期的に訪問して頂いている介護相談員からも情報を得るようにしている。また、市からの委託事業である家族介護者教室を年3回開催し、必要に応じて相談等も行っている。		グループホームだけでなく、他の事業所とも連携し、必要に応じたサービスの提供や相談等に努めています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に対してはこれまでと同様に会議の場や、書面等での周知を行っている。また、改善すべき問題についても、事業所の全体会議でも検討している。	○	自施設の自己評価・外部評価のみならず、他施設の評価に関しても関心を持ってもらい、今後の課題提起に役立てていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期に実施し、近況報告とともに現状の問題点なども検討を行い、各委員の意見を元に職員会議にてサービスの向上に取り組んでいる。		各専門分野の意見も参考にし、サービスの質の向上のみならず、リスクマネジメントに関する検討も行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	羽曳野市高年介護課との連絡は常に綿密な現状の報告と情報交換を行い、双方の連携が出来ている。また、羽曳野市の7つのグループホームとも、部会を通して情報の交換を行っている。		現在は、特に介護相談員を巻き込んだ情報交換が盛んになり、外部から見た感想や、希望要望なども聞く事が出来ている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の委託事業である家族介護者教室や外部研修へ参加し、また他の事業所の勉強会にも参加している。伝達研修も実施し、内部研修の一環としている。		伝達研修を行う事により、職員個々人のスキルアップに繋げている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、虐待についての理解や防止に努める。		管理者及び職員間で、常に相手の立場に立ったケアを実践し、虐待のない環境を維持しています。また、管理者や職員同士でお互いのケアを見つめなおし、虐待等の抑止の目になるように努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ず職員2名で重要事項を説明し、十分な説明と見学の時間をとり、グループホームでのサービス内容や特色等も説明している。また、解約に関しても、利用者様の都合に極力合わせられるように調整を行っている。	入居前の見学は十分行って頂き、併設の事業所についても説明を行っています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、地域運営推進会議などで、意見の交換を行うことを心がけたり、話にくい場合も考慮してアンケートの実施、意見箱の設置等を行っている。そこから、改善面や要望への対応をしている。また、利用者の要望に合わせ、居室での相談も実施している。	羽曳野市より介護相談員2名を派遣して頂き、入居者様の不満や意見を聞き取りして頂き、検討課題としている。また、日常的に入居者様とコミュニケーションを取り、必要に応じて管理者や介護主任等が居室内での相談にも応じている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金の支払いを現金払いを原則として、月に1度は必ず面会に来て頂き、入居者様の近況やグループホームの様子を報告している。また、電話での近況報告や、華新聞等も作成し、入居者様の日常生活についても報告している。	○ 面会の頻度が少ない状態にあるご家族への連絡について、手紙や電話だけでなく、その他の連絡手段がないか検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や地域運営推進会議内でも意見を出して頂けるように時間を設けている。また、利用料金の支払いや面会時には、管理者及び主任・職員より状況の報告を行い、ご家族の意見等も聞き取りしている。	面会時には近況報告を行い、苦情や意見等に関してはその都度対応している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を実施し、職員個々人の意見を聞き取り、ケアの質やサービスの内容等に反映させている。	○ 現段階では個人面談の実施は不定期となっている為、今後は定期的実施できるように努める。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	非常勤のスタッフ配置に関しては、3時間からの勤務体制を確保し、行事や不穏の目立つ時間帯に向けて人員配置を行っている。	常に余剰の人員が配置されており、細かな対応を行っている。また、体調の変化での受診も常に対応できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や人事異動は少なく、特に管理者や主任はほぼ異動がない状態。また、新入職スタッフに関しては、2週間から1か月の期間で研修を行い、入居者との十分なコミュニケーションを取ってもらっている。	○ 研修のカリキュラムを再構築し、より良い認知症介護を提供できるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部・外部の研修には積極的に参加を促し、職員個々のスキルアップを目指し、個人単位での研修制度を構築している。</p>	<p>○</p> <p>個人研修の充実を図り、更なるスキルアップを目指す。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>羽曳野市の7つのグループホームと、他市の1事業所の職員が月に1度集まり、勉強会を実施している。また、勉強会以外の交流会にも参加している。</p>	<p>各施設において、管理者やケアマネージャーだけでなく介護職員等の相互研修や施設見学会情報交換の機会を設け、サービスの質の向上を継続的に取り組んでいく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内で、慰安旅行やボーリング大会、ビヤガーデン、忘年会などを実施している。極力職員の参加を促している。</p>	<p>今年からは、先の内容に加えレストランやホテル等での食事会も開催し、ほぼ全ての職員が参加しています。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>問題点については、会議という単位だけではなく、個人面談等でも解決できるようにしている。また、経験年数に伴い、各種研修の受講も可能なように配慮している。</p>	<p>○</p> <p>会議では、職員個々の発言を大事にし、管理者や主任だけの会議にしないように常に会議の在り方について検討する。また、個人面談については、定期的実施できるようにし、面談と評価が連動するようなシステムを作成していきたい。</p>
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の施設見学時には、トイレの体験利用や、車椅子での移動等を体験して頂き、満足がいくまで時間をかけて話を聞くことを心掛けている。また、必要に応じて自宅まで出向き、生活歴等の聞き取りをおこない、信頼関係作りの第一歩としている。</p>	<p>希望要望に応じ、自宅や施設、病院等へ足を運び、状態の把握や日常の変化等を聞き取り、よりスムーズな入居の流れを構築している。また、現場スタッフが同行する事により、不安の解消にも繋がっていると考えている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の要望等は多岐にわたるが、その一つ一つに対応できるようにしている。また、施設だけでなく、施設周辺の情報等もお知らせすることにより、幅の広い信頼関係を構築する。</p>	<p>来訪時には職員が付き添い、施設内の事や周辺環境等についても説明している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の際にはアセスメントシートを用い、その時が必要かを聞き取り、場合によっては他の事業所とも連携を取り、本当に必要とされているサービス提供に努めている。		併設される、デイサービスや小規模多機能ホームとも連携し、より必要とされているサービスの提供を行っている。入居の必要性が高い場合は、その方のレベルにあった内容のサービスや対応を、本人及び家族と検討している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に関しては原則オープンにしており、納得のいくまで事前に見学して頂いています。また、入居される場合は、なじみの物や、入居前の生活空間を再現できるように努めています。	○	極力なじみの物を排除せず、常にリスク管理を怠らず、より安心安全で、落ち着いた生活空間を実現していきたい。また、物だけでなく、人とのかかわりを大切に、第二の住み家になるように努めていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内でのケアだけではなく、外出や外食の機会を増やし、職員と共に楽しめるような個別ケアを実践し、先ずは入居者との信頼関係を構築する。	○	季節によって出かける場所なども考え、また、買い物などにも一緒に行き、これまでの生活歴等を聞き取り日常のケアに活かしています。今後はよりいっそうの外出や個別ケアを目指す。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず職員より近況報告を行い、日常生活上の変化等は細かく報告しています。また、夜間の不穏時等には、電話連絡などでお話ができるように配慮しています。	○	家族会や各種行事の際には参加を促しているが、参加状況は毎回同じご家族になりがちである。また、連絡がつきにくいご家族も多く、電話や手紙だけでなく、日常的な連絡の手段の確立が必要である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時だけでなく、定期的な状況報告を電話等で行っている。また、外出や外泊も促し、必要に応じて介護タクシーの手配なども行っている。		定期的な外泊や外出は少なく、面会の頻度が少ない家族には、より細かな状況の報告を行っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族、知人、友人の手紙を代読、代筆したり、電話を掛けたしながら、お互いの関係を大切にしている。また、同事業所内にある、通いのサービス利用者との関係も大切にしている。		外部からの手紙等が減少しつつあるので、現在は併設のデイサービスに通われている利用者との関係を大事にしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでの席配置に気を遣い、レベルの近い方と過ごすことが出来るようにしている。また、入浴や散歩なども、なじみの入居者同士になるように配慮している。		入居者個々の相性やレベルに合わせた島分けを行い、より個性の高いケアを行っています。外食や外出なども、小さなグループで行くことにより、より細かな入居者の心身状況を把握できる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて相談等は受け付ける体制を確立しています。また、今年度からは、羽曳野市の委託事業の家族介護者教室でも相談業務を行う予定です。		病院などのは面会などを行い、馴染みの関係の継続を行っています。また、訃報等への対応も行っています。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接記録やアセスメントシートなどを基本に、本人や家族の要望を把握しています。また日常の会話、関わりのなかから思いを聞く様にし、ケース記録、カンファレンス時に情報を共有するようにしている。	○	利用者本人の生活のなかから自然と意向が発見できるよう、なじみの関係作りやケアに努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報以外にも一部センター方式アセスメントを利用し、生活歴を把握するように努めている。プラン説明時や、ご家族の面会時にも時間をいただいて、以前の暮らしぶりや生活環境等を聞き、把握に努めている。		ご家族の来訪時や家族会等の機会も利用し、生活暦や暮らし方の把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の業務にてモニタリングシートやケース記録の記載を通じ、また朝のミーティングや各時間帯の申し送りを充実させることにより、現状を総合的に把握できるように努めている。	○	食事摂取、排泄状況、バイタル等のシートへの記録を充実させ、健康管理の看護師とも連携、情報の共有を図り、現状を総合的に把握するように努めている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期、随時にカンファレンスを開催し、他の職種間の意見を調整し、介護計画書に反映できるように努めている。家族、本人の意見も汲み、介護計画書に盛り込むようにしている。		個々の変化があるごとに、又、定期以外にも毎月グループホーム会議においても検討すべきケースについてはカンファレンスを開催し、意見を求めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低3ヶ月に1回はモニタリング、アセスメント又、ケース記録をもとに、介護計画書の見直しを図り、計画書の作成を行っている。特段の大きな変化がない場合は、定期的に行っている。		利用者の変化については、随時家族にも報告し、対応については適時カンファレンスの開催を行い、プランに反映させている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職種間に応じて、介護記録、看護記録、経過記録の記載を行い、記載内容に対しては職種間にて、申し送り、情報交換を密にして、気づきを共有し、介護計画書の見直しに繋げるように努めている。		計画作成担当者、介護職員、看護職員間で相互の声掛け、情報交換の頻度を増やし、情報の共有に努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族とも相談、連携を図りながら、ホーム以外の他の福祉サービスができるように援助を行っている。病院受診に対しても、必要性に応じ、スタッフの病院への付き添いを行い、安心した受診が行えるよう、援助している。		他の福祉サービス(介護タクシー、福祉用具事業所)の利用を今後も効果的に図り、利用者の要望に応じていく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	書道や手工芸、デコパージュ等のボランティアの受け入れを図り、ボランティアの指導のもと、活動に取り組んでいただいている。近隣の図書館への外出や図書の貸し出し等も協力を仰いでいる。		地域における菊花展への参加やホームでの生活、出来事を毎月、ホーム前の掲示板に張り出し、情報発信することにより、地域の方々とのコミュニケーションが可能となっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホームに併設している小規模多機能事業所のケアマネージャーとは情報交換、連携を強化している。又、地域のケアマネージャー会議にも毎月出席を行い、情報交換、連携を図っている。	○	地域のグループホームのケアマネージャーの連絡会議には今後も出席を行い、ケアマネ間の交流、情報交換は今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームの企画する家族介護者教室に、地域包括支援センターの協力を得て、権利擁護に関する講演会を実施予定である。	○	後見人、権利擁護を必要とする利用者も今後考えられ、必要に応じて地域包括支援センターとの連携も強化していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、定期的に往診があり、状態の変化や往診時の医師からの意見等については、必要に応じて家族に報告し、対応について相談するようにしている。		往診時に病状の重要な変化については適時家族に報告した上、かかりつけ医が必要とした場合には、家族にも往診に立会いをしてもらい、相談を行っている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>かかりつけ医と相談の上、専門医の診断が必要な場合は家族に報告、連絡の上、専門医の受診が行えるよう援助している。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>健康管理の看護師と、往診時の看護師との連携を強め、緊急時や状態の変化時に適切に対応できる体制作りに努めている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>利用者が入院時には家族と共にスタッフが付き添い、入院準備や本人の使い慣れた物の準備を行い、病院との情報交換を密にし、退院後はスムーズな受け入れに繋がるよう努めている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族の希望で、「終末期をホームで看取って欲しい」と希望されることもあり、終末期においても出来る限りホームでの看取りを行う方針ではあるが、現在は、最終的に病院への搬送を余儀なくされている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>終末期においても出来る限りホームでの看取りを行う方針ではあり、健康管理の看護師や協力病院とも連携できる体制を作っている。現状では最終的にかかりつけ医の判断で、病院への搬送となっている。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>情報提供書をよりスピーディーに、タイミングよく住み替え時に伝達できるように努め、医療看護面でも情報が伝達できるように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けに関しては、接遇委員会でのアンケート調査や会議の議事録を配布するなどし、接遇に関する啓発を行っている。また、個人情報に関する注意事項も委員会からの議事録等をファイルし職員個々人で目を通すようにしている。	○ 接遇面に関しては、常日頃から職員間で指摘し合えるようにしていきたい。また、リビングにおいても、個人のプライバシーを確保できるような空間づくりも検討しています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	必要に応じ、個別での相談(傾聴も含む)を行っています。また、入居者個々人のレベルに合わせた島作りを行い、他の入居者との関係に配慮しながらケアを行っています。	本来行っておられた家事などを、自然な形でできるように声かけを行っています。また、外出等に関してもレベルに合わせた場所設定なども行っています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、本人のペースに合わせたケアを実践している。	食事に関しても、その日の状態に合わせて可能な限り変更等の対応しています。また、入浴に関しても、時間を問わず希望される時間に利用して頂けるように職員を配置しています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	清潔はもちろんのこと、洋服のコーディネートにも気を付けている。理容、美容も本人の希望を受け入れて、顔剃りがしたいときは、理容で行い、カットのみの時は美容を利用するなどしている。	○ レベル低下に伴い、食べこぼしなどが多くなり、衣服の汚れが目立つので、本人の了解が得て、その都度衣服の更衣を促し、必要に応じて介助を行っています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のレベルや、やりたい事を把握し、希望や要望に応じながら、無理のない範囲で援助を行う。	人によっては、家事は行いたくないとの訴えもあり、無理強いはしていませんが、盛り付けや片づけは日常的に行っています。一方では、外食等の行事を増やし、入居者のレベルに合わせた場所を設定しています。現在は、月に1度の駅弁・会席に加え、おやつの日と題し、普段にはないおやつを提供も行っています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に応じて嗜好品は用意しています。嗜好品の内容によっては、医師との相談を行い、病状に合わせた提供を行っています。	居酒屋やバーベキュー・夏祭りといった行事の際や、夕食のメニューによっては飲酒・晩酌をされています。また、行事の内容等によっては、業務外で職員も一緒にお酒を酌み交わしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を心がけている。入居者様の習慣や排泄サインを把握し、トイレでの排泄ができるようにケアしている。		夜間の排泄が頻回な方に関しては、安眠を優先し本人や家族の同意のもと、ポータブルトイレの設置も行っている。また、下剤の使用に関しても、薬剤の種類や量のコントロールも医師と相談の上で、個々人に合わせた調整を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として、いつでも入浴ができるように職員の配置を行っている。また、自宅と変わらないようなリラックスした入浴環境の整備も心がけている。		希望に応じて入浴剤なども用意し、入浴を楽しんで頂いている。また、年に数回はバラやみかん、レモンなどを浴槽に浮かべ、普段とは違う入浴タイムも実施しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の状態や気分の変化に対応し、その人らしい1日を過ごして頂く。また、昼寝なども促し気分の切り替えもしていただく。		日中は、マッサージや足浴などを実施し、夜間の不眠に関しては、夕食後の入浴を促したり、医師に相談するなどの対応を行っている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々人の興味のあるものを把握し、それぞれの役割に応じた支援が出来るように努めている。		朝刊夕刊の新聞取りや家庭菜園の管理、食事の盛り付けや片付けなどをメインに、最近では、毎月の誕生日会での入居者による詩吟の発表なども行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望やレベルに応じ、家族と相談の上で自己管理もして頂いています。	○	近隣のスーパーや衣料品店などへの買い物の機会を増やし、ご自身で支払いやお釣りの受け取りなどをして頂き、今まで以上の社会参加を実施していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園に散歩に出かけたり、ドライブなどを実施し、季節を肌で感じて頂き、気分転換を行っている。		散歩の一環として、図書館にも立ち寄り、好きな本などを借りてきている。また、ドライブでは、神社やお寺を巡りしたり、山や川が見える場所に行き、自然にも触れたいと思っています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者個々人のレベルに応じて場所の設定や家族の協力を依頼しています。また、日頃より入居者への希望等も聞き取りを行っています。	○	回転寿司やファミリーレストランへの外出、100円均一のお店などにも出向いています。また、年に1回の遠足への家族の参加も、今後は促していきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話等は、希望により随時行っています。	○	入居者の希望があれば、その都度電話の取り次ぎは行っています。また、手紙でのやり取りは少なくなっていますが、必要に応じて代読や代筆も行っています。また今後は、年賀状の発信も取り組みたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室は勿論、リビングでの談話も自由にして頂いています。		必要に応じて居室内にテーブルを用意したり、家族との食事も可能なようにしている。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身近な物品を用いて、創意工夫しながら拘束のないケアを実践している。また、内部外部の勉強会への参加も促し、職員個人の人々の身体拘束への認識と、スキルアップを図っている。		可能な限り見守りや寄り添いのケアを行い、必要に応じて居室内のレイアウトや身近なアイテムを活用して身体拘束のないケアを行い、また事故の防止にも努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関しては、開設当初より鍵は掛けないケアを実践しているが、各ユニットからの玄関に当たるエレベーターに関しては、未だに取り組めていない。	○	以前に比べれば、外出の回数は多くなり、散歩だけでなく車を使用したドライブなども実施している為、入居者からの外出の要望は少なくなっているように感じます。また、エレベーターのテンキーに関しては、それに替わる対応は出来ていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に見守りと寄り添いのケアを行い、入居者には安心して暮らす空間づくりを行っている。		日中は、レクリエーションや家事等を共に行いながら、入居者の状態を把握している。また、夜間に関しては細かな巡視や、場合によってはリビング等での対応も行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カンファレンスや家族との話し合いにより、その人らしい居室づくりを実践し、リビング等の共用スペースに関しても、家庭的な環境づくりを考えています。		入居者個人個人のレベルを把握し、本来あるべき場所に必要な物は可能な限り設置し、状態に合わせた見守りや援助を行っている。常に説明や声かけを行うことで、忘れかけている事を少しでも思い出して頂けるようにしています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理対策委員会を設け、アクシデント、インシデント、ヒヤリはつと、3種のレベルに分けてリスク管理を行っている。また、火災等の事故に関する対応は、年に2回の消防訓練の実施で対応している。	○	ヒヤリハットの報告は、すぐに書き込みが出来るようにしており、インシデントに関しては、原則として当日に書類の作成を行い、カンファレンスを実施。アクシデントに関しては、報告書の作成と同時にSHELの分析も行い、事故が起こった原因の究明と今後の対応を検討しているが、SHELの分析に関する理解が今後の課題。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の救急対応に関する勉強会に参加する事と、急変や救急に関しての対応マニュアルを作成し、各ユニットに用意している。	○	年に2回の消防訓練の際に消防隊員へ疑問点等は質問している。また、不定期ではあるが、消防署に救命訓練を依頼し、職員個々人のスキルアップに役立てている。今後は、救命訓練を定例化し、様々な事故や急変に対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練を行い、基本的な通報・避難・消火訓練を実施しています。	○	地域運営推進会議でも、地域に華があることのアピールはしており、災害時にはお互いが協力しあえるように話し合いをしています。今後は、災害時用の備蓄物なども検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時の状態説明と、医療と介護の両面からサポートできるようにしている。		必要に応じ、ケアプランの見直しを行い、リスクについても家族に説明を行っています。また、転倒のリスクが多い方に関しては、骨折予防のクッションパンツの購入を促しています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療との連携により、入居者個々人の健康管理を行っている。また、介護職員は日ごろより排泄や食事量などを記録している。		バイタルの異変や、急変時には、かかりつけ医に連絡を取り、必要に応じて受診している。また、毎朝のバイタルチェックと共に、入浴前や外出から戻られた際にも、バイタルの確認を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々人のカルテに、薬剤の説明書を添付しており、職員はいつでも薬の処方量や効能・副作用を確認できるようにしている。		往診時に薬の変更や医師の指示内容が確認できるように、往診の記録を作成し、口頭でも往診時の内容を申し送りしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、2週間単位で確認できるように記録している。		毎日の排泄チェックを行い、状態に応じて水分摂取量の確認も行っている。また、便秘の方には食物繊維の入ったゼリーや、お茶をゼリーにした物も提供している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは日常的に行われており、義歯に不具合が無いのか、また口腔内の傷なども確認している。		週に1回の歯科往診で、より専門的なケアや治療も行われている。また、通院治療が必要な場合は、歯科医や介護タクシーとの連携で通院も可能となっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受けて個別に対応している。		糖尿の方には、カロリーコントロールを行い、嚥下障害のある方にはトロミを付けたり、加圧調理などで対応している。また、お茶をゼリーにして、水分摂取量の確保に努めている。現在は、市販の栄養補助のゼリーなども活用している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染症会議への出席と、内部・外部の研修にも参加している。また、インフルエンザ等に関する資料は、常に最新の物をファイルしている。		基本的な感染症のマニュアルを作成し、各ユニットに設置している。また、入居者及び職員の予防接種も実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、食材は毎日購入しており保存の効く物のみストックとしている。食器や調理用具等も必ず乾燥機にかけて、熱処理を行っている。		調理前の手洗いやアルコール消毒を習慣づけています。また、開封した食材などには、必ず日付を付けるようにしており、出来ればその時に使い切るようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	見学はいつでもして頂けるように、常にオープンなスタンスを取っています。また、月に1度の施設周囲の清掃活動も行い、声を掛け合える環境作りに努めています。		各事業所の案内や特色、また行事の際の風景を掲示板を用いて近隣の方々に発信しています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに季節感のある壁画を作成したり、リビングでの座席配置を工夫している。可能な限り、入居者の意見を取り入れ、ハード・ソフトの両面から対応している。		居室は、入居者の使いやすいような模様替えを行い、トイレは匂いに対する部分に気を遣い、汚物(尿取りパットや紙おむつ)はビニール袋に入れるか新聞で包むなどの配慮をしている。また、消臭剤等もトイレ内だけでなく、ゴミ箱にも設置している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、また廊下のコーナーには椅子やテーブルを設置し、居室だけでなくリビングでもプライベートな空間づくりを考えています。	○	リビングでのプライベートな空間づくりに関しては、今後も検討の余地があるが、身近なアイテムを利用し簡単な目隠し(視線を遮る)でも、十分効果がある事に気づく。今後も、常に入居者の希望や要望に応えられるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅や施設等で使い慣れた物の持ち込みを促しています。また、生活歴にも配慮し、ベッドではなく畳の用意も受け付けています。		家族の写真や人形、また使い慣れた寝具の持ち込みも自由で、必要に応じて職員からもアドバイスをさせて頂いています。特に、家具の配置などでは、家具が手摺がわりになるようにしたり、カーテンをより遮光性の強いものにして、安眠が得られるようななどの工夫を行っています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候に合わせて換気を行い、必要に応じて消臭剤等の設置を行っています。		冬期は加湿器を使用し、ポータブルトイレを使用されている方は消臭剤を設置している。換気扇は24時間稼働させており、居室及びリビング・廊下も全て温度管理を行っている。ただし、トイレ内の臭気は全て消すことは困難で、汚物などは、小袋に入れるなどしているが、全ての臭気を排除する事が困難な状態。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング及び各居室、またトイレ等も十分なスペースを確保している。必要個所には手摺や椅子などを配置し、自主トレーニングも可能なように対応している。		居室内の家具や椅子等は、本人が生活しやすいレイアウトを考えている。また、リビングや廊下に関しても、手摺以外に椅子やテーブルなどを設置し、手摺がわりにしたり、休憩できるようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者のレベルについては、カンファレンスや日ごろのケアの中から評価し、職員間で情報の共有に努めています。		個別ケアも重要ですが、日常生活を営む上で大事な、他者との関係に着目し、大きく3つに島分けを行い、レベルの近い方同士で過ごせるようにしています。外出時や食事の席などにも配慮し、気の合う方と常に良い関係を維持して頂いています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	3階にあるベランダを活用したり、年に数回は、駐車場のスペースも活用している。		ベランダでは、夏野菜の栽培から収穫、季節の花を植えるなど、季節を感じてもらえるようにしています。年に数回は、バーベキューや野点、、近隣にある御陵や公民館等への散歩も行っている。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活上でのケアは、何かをして頂いて不穏や時間経過をごまかすのではなく、必要に応じた寄り添いのケアを実践しています。また、高齢者によく見られる便秘症に対しては、水分や食物繊維の摂取を心がけると共に、下剤のコントロールに関しても、医師と相談のもと数種類の薬剤の中から、その方にあった薬・用量を細かく調整しています